

理事長に就任して-Working together for our patients and society-

理事長 岡本真一郎
(慶應義塾大学医学部 血液内科)

今年 2 月の日本造血細胞移植学会総会開催時の理事会での推薦を受け、今村雅寛前理事長の後任として、本学会の理事長に就任いたしました。

振り返ってみると、私が造血幹細胞移植の世界に足を踏み入れたのは 1983 年、後輩の医師が慢性骨髄性白血病になった頃です。その後は Emory 大学、Fred Hutchinson 癌研究所、東京大学医科学研究所で移植の臨床の研鑽を積み、平成 5 年からは母校に戻り多くの移植を手掛け今日に至っています。この間、我が国の造血幹細胞移植の基礎を築き、その飛躍的發展に多大な貢献をされた浅野茂隆先生、小寺良尚先生、正岡徹先生、原田実根先生のご指導を受けられたことは、私の人生の大切な treasure でした。私が初めてこの学会に参加したのは、名古屋で小寺先生が主催された骨髄移植研究会(当時は学会ではなく研究会でした)です。APBMT(Asian Pacific Blood and Marrow transplantation Group)の主要なメンバーに会ったのもこの時と記憶しています。その後は、移植医として、JSHCT の様々な委員会での活動を通して学会の発展に貢献するとともに、日本骨髄移植推進財団の立ち上げにも関与し、海外のドナーバンクとの連携にも長く携わってきました。造血幹細胞移植は移植実施機関だけではなく、ドナー、造血幹細胞提供機関、その他多数の職種のコラボレーションに支えられた他に類を見ない医療ですが、私はその移植医療に参画する様々なチームの視点から移植医療の成長を見つめてきました。

このような carrier を生かし、JSHCT をその学問的かつ社会的貢献を通して国際的にも高く評価される学会に成長させることが私の vision です。そのために、これからの移植を担う次世代の移植医・看護師・コメディカルスタッフを育成するとともに、彼らの臨床・研究への熱意とアイデアを学会に積極的に反映し、その貢献を正しく評価していく体制を構築すること、我が国の移植医療体制を支える多数の移植施設の連携と医療レベルの質を高め、移植によってもたらされる治癒の拡大とその質の向上を目指すこと、そして、国内だけでなくアジア諸国を中心とした海外の学会・研究グループとの積極的な国際交流を推進し、国際的なリーダーシップを発揮することを私の mission として leadership を発揮していきたいと考えています。

JSHCT の益々の発展を目指して頑張りますので、会員の皆様の温かいご支援とご協力をどうかよろしくお願い申し上げます。